

高規格道路【南部東道路】整備事業について

沖縄県 土木建築部 道路街路課

1. はじめに

南部東道路（南風原知念線）は、沖縄県的那覇市に隣接する南風原町から南城市に至る延長7.4kmの高規格道路であり、起点是那覇空港自動車道に直接乗り入れとなるジャンクション（以下JCT）形式での連結としています（図-1）。

南部東道路の整備により那覇空港自動車道と一体となって、定時・定速を確保し、那覇市までの30分圏域の確立を図り、那覇空港、那覇港等へのアクセス性が向上することで、地域住民に都市的サービスを提供するとともに南部圏域の振興を支援する道路です。

当該地域は、那覇市から半径15km圏内という好位置にありながら、急峻な地形等による幹線道路の整備遅れにより、通勤・通学、通院などの移動にも時間を要する上、既存の県道は、大雨時の斜面崩壊で度々通行止めになるなど、地域からは那覇都市圏との連携機能の強化と安心・安全な道路の整備が求められています（図-2）。

また、道路整備の遅れは、世界遺産の斎場御嶽（セーファ ウタキ）やあざまサンサンビーチなど、多くの観光資源を有する当該地域の観光振興や地場産業の発展にも影響を及ぼしており、早期の幹線道路整備は、当該地域だけでなく南部圏域全体にとって極めて重要な課題となっています。

本稿では、整備効果、全体概要及び事業進捗状況等を紹介します。



図-1 南部東道路位置図



図-2 那覇市中心から15km圏内



写真-1 世界遺産 斎場御嶽、あざまサンサンビーチ

2. 事業概要

事業の概要は表-1のとおりとなっており、現在、暫定2車線での完成を目指して整備を進めています。

表-1 事業概要

事業区間	L=約7.4km（南風原町字喜屋武～南城市玉城字垣花）
道路規格	第3種第2級 設計速度60km/h
道路幅員	W=16.25m（完成4車線） ※ W=8.5m（暫定2車線）下り
主要構造物	トンネル 1箇所 橋梁 21箇所（うち本線橋18箇所、跨道橋3箇所） 横断ボックス 9箇所
事業費	約386億円（暫定2車線）
事業期間	2011年度～2020年代後半

事業の経緯は以下のとおりとなっています。

- ・平成6年12月：地域高規格道路「計画路線」指定 L=12km
- ・平成9年9月：地域高規格道路「調査区間」指定 L=12km
- ・平成15年2月：「南部東道路調査検討委員会」でルート決定 L=12km
- ・平成18年3月：地域高規格道路「整備区間」指定 L=8.3km
- ・平成23年9月：都市計画決定（整備区間のみ）
- ・平成23年10月：環境影響評価書（補正）縦覧
- ・平成26年3月：都市計画決定の変更（4工区）
- ・平成27年8月：南部東道路起工式を実施
- ・平成28年1月：南部東道路建設現場事務所開所式を実施
- ・平成30年3月：直接乗り入れによる事業計画の見直し「整備区間」L=7.4km
- ・令和2年1月：環境影響評価審査会（直接乗入）
- ・令和2年3月：都市計画審議会（直接乗入）
- ・令和3年3月：各ICの名称が決定（道路標識適正化委員会）
- ・令和3年3月：4工区が令和3年3月暫定供用開始
- ・令和3年12月：追加JCTの実施設計開始

3. 整備効果

南部東道路の整備による整備効果は、「観光振興」、「産業振興」、「医療支援」、「沿道環境」などが挙げられています。

「観光振興」では、整備によって観光地間のアクセス向上による時間短縮が期待できます。

「産業振興」では、混雑緩和に伴う那覇空港までの物流の効率化が期待できます。

「医療支援」では、南城市から高次医療機関までの搬送時間短縮が期待できます。

「沿道環境」では、車の排出ガス削減等により、現道路の沿道環境の改善が期待できます。

さらに、「災害時の代替道路」の機能の確保、強化という整備効果があります。既存の県道南風原知念線は、大城ダム付近で毎年のように大雨による法面崩壊の危険回避や復旧工事などで、交通が規制され県道を大きく迂回している状況となっているため、代替路線の確保が不可欠となっています（図－3、写真－2）。



図－3 交通規制時の代替路線



写真－2 県道南風原知念線災害復旧状況

4. 事業区分

事業延長 $L = 7.4\text{km}$ を4区間に区分し、整備を進めることとしています。JCT付近の一部区間を除き自動車専用道路としており、本線へのアクセスは原則、区間毎の起終点に設置されたIC及び交差点からのみとなっています（写真－3）。



写真－3 全体航空写真

- ・ 区間1は、那覇空港自動車道へ直接乗り入れる追加JCT、町道から本線へアクセスできる箇所（ミニランプ）を含め、神里トンネル（110m）、高平高架橋（400m）を整備します。（写真－4）（写真－5）

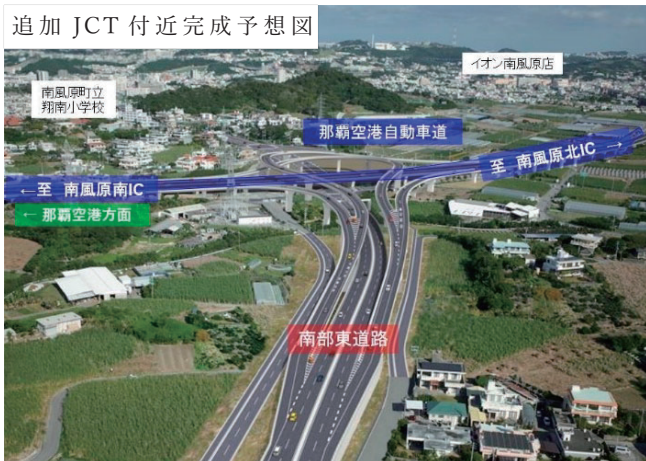


写真-4 追加 JCT イメージ図



写真-5 イメージ図 (高平地区付近)

- ・ 区間 2 は大里 IC から盛土構造と続き、仲間高架橋 (310m)、仲間高架 2 号橋、多段切土、雄樋川橋を整備します。
- ・ 区間 3 は、高盛土から大城高架橋 (172m)、大城ダム 1、2、3 号橋 (計 324m) を整備しており令和 3 年に一部暫定供用を開始しました (写真-6)。



写真-6 区間 3 (大城ダム 1 号橋 ,2 号橋, 3 号橋) 付近現況

- ・ 区間 4 は、ほぼ全ての区間において掘割構造となり、終点の南城つきしろ IC において平面交差となります。(写真-7)。



写真-7 南城つきしろ IC 付近

5. 事業工程

事業工程としては、荒天時及び土砂災害による交通規制が頻発する区間3から工事に着手し、令和2年度に区間3を暫定供用しました。

令和4年度は、区間4、区間2の整備を進めており、今後は区間1に着手する予定です。
2020年代後半に全区間の暫定（2車線）供用を目指しています。

6. 進捗状況

平成23年度から実施設計、環境調査、平成25年度から用地取得に着手しています。

事業延長7.4kmには約1200筆の用地取得筆数があり、令和4年3月時点の用地取得は、取得面積ベースで69.2%、用地筆数ベースで52.1%となっています。

工事進捗は、用地取得状況を踏まえ、工事箇所において事前環境調査を実施した上で、平成27年度から橋梁下部工及び道路改良工事に着手し、令和4年3月時点の事業全体の進捗率は事業費ベースで約44.5%となっています。

7. 今後の取り組み

用地取得については、区間2～区間4において事業認可の手続きを終え、用地買収を進めています（※区間3は完了）。区間1については、平成28年度に都市計画決定変更及び事業認可、那覇空港自動車道直接乗り入れのための追加JCTについて令和2年4月に都市計画変更を行っており、令和3年度から本格的な用地交渉を行っています。

工事については、南城市の要請及び国との調整を踏まえて、区間4の整備を優先し当区間の早期供用を目指しています。

全区間については、2020年代後半を目指して取り組んでいるところです。

8. おわりに

南部東道路の工事は、一部区間を暫定供用したところではありますが、引き続き工事の安全に十分に配慮し、1日も早い全線供用に向けて、南城市、南風原町をはじめ関係機関と連携し、全力で事業を推進していきます。

今後とも皆様からのご支援、ご協力、またご指導のほどを賜りますようお願い申し上げます。南部東道路の事業概要紹介とさせていただきます。